

令和5年度 あしかりこども園 自己評価



1. 保育方針

愛情につつまれながら安心して生きる力を育む養護と教育に基づき、家庭、地域との連携を図りつつ、園児一人ひとりの特性や発達に応じた教育・保育を行う

2. 保育目標

① 明るく	② しっかり	③ のびのびと生きる	④ 心豊かな子ども
<ul style="list-style-type: none"> ・笑顔あふれる子ども ・心身共に健康でたくましい子ども ・みんなと力を合わせてやりとげられる子ども 	<ul style="list-style-type: none"> ・元気な挨拶と返事ができる子ども ・最後まで一生懸命取り組める子ども ・よく聞き、自分の気持ちを伝えられる子ども 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の事は自分でできる子ども ・自然に親しみ感謝する子ども ・なんでもよく食べ、力いっぱい遊べる子ども 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域交流を通して郷土を愛する子ども ・優しく思いやりのある子ども ・個性豊かに自分を表現できる子ども

3. 重点目標に対する取り組み状況および評価

項目	重点目標	取組状況	評価・課題
教育・保育内容について	【子どもの主体性が発揮できる環境を整えていく】	○職員配置や安全面での課題をクリアしながら、どこで何をするかを、子ども自身が選べる環境を整え、遊びに熱中し展開できるようにした。	・園児が室内、戸外での遊びを選んでいく中で、園児の活動場所が広範囲になるため、死角を作らないようにすることが課題となった。自由に遊ぶ中にも、子どもと共に「約束・ルール」を作り、子ども自身に安全に遊ぶことへの意識や規範意識への芽生えへと繋げていく。
	【年少年中混合保育での課題を園全体で共有し職員同士が協働性を高めていく】	○令和4年度末に試験的に異年齢交流を実施。混合クラス運営に特化した会議を重ね、今年度本格スタートとなった。新学期にみられる不安定さ、場面によっては、年中児の大きな声やダイナミックさに圧倒される年少児もいるため、年中年少 20名ほどのクラスを保育教諭3人体制で対応した。	・通常、新年度に見られる不安定さはあるものの、そこを同じクラスの年中児が新入園児を含む年少児に優しく関わる姿が見られ、安定する年少児も多かった。以上児クラスに関して基本的に3人体制で対応し、新学期に必要な細やかな見守りができた。 ・遊びの中では、製作活動時にハサミの使い方や製作のコツを年中児が年少児に教える姿も見受けられた。室外室内共に、異年齢がよく関わっていることも昨年と比べ顕著に感じられた。
	【遊びや意欲をとめないように、一人ひとりのペースや生活リズムを大事にしていく】	○午前中のおやつを中心に、「食べたい」子どもや早朝から登園している子どもを誘い、遊びに夢中になっている場合はその気持ちを尊重しながら遊びを止めない保育を心がけた。	・未満児クラスが遊びを継続していくための環境づくりに、難しさがあった。小城市保育会未満児研究委員会や外部研修での「未満児クラスの環境づくり」について学んだことを実践し、改善に努める。
	【心の安定、安心できる環境の上に健やかな育ちがある事を踏まえ、家庭との連携を密にとっていく】	○様々な家庭環境の中で育つ乳幼児が、集団生活の中でも安心感を持って生活できるよう、家庭との信頼関係を築き、保護者家族との情報共有を行う。面談や送迎の際に子どもの姿を声で伝え、成長の喜びや悩みへのサポートを行った。	・笑顔で応答的なかかわりを心がけることで、子どもが安心して興味関心を高め、冒険できるようになる。教えることや手伝えることの前に、今、子どもが何に興味を持ったか、どう成長しようとしているかを読み取り、見守っていくことが大切である

就学に向けての取り組み 小学校との連携及び	【小学校との連携と保護者に向けた就学前に関する情報提供と取り組み】	○感染症予防対策として、小学校との交流が制限されてきたため、就学への不安は園児に限ったものではないと思われる。今年度より、おおむね交流事業が再開されたため、多少の不安の緩和が期待できる。各学校に園での参観を依頼し、就学前の様子を実際に見ることにより、学校側が新入学児童に対してスムーズに学校生活に慣れる準備をして頂きたい。 ○園児に対する就学に向けた準備に加え、保護者が小学校について知りたい情報を提供できた	・コロナ禍前同様、小学校との交流活動が再開され学校へ足を運ぶ機会があり、1年生2年生5年生との交流を深められた。就学へのイメージができ、場所を知る機会にもなった。幼保小連携会議だけでなく芦刈観瀾校より教員が園へ、園から保育教諭が小学校へ出向き、お互いの様子を見学する。保護者へ小学校に関する情報を提供することにより、特に初めて就学を経験する保護者自身の不安を緩和する手助けができたが、更に学校へのハードルを低くできるよう、働きかけを進めていきたい。
子育て支援について 保護者支援	【園庭開放、子育てサロンを通じた地域の子育て家庭への支援】	○核家族家庭の母親（特に第一子）は孤立しやすいため、同世代の子を持つ母親との交流の場となるよう働きかけをおこなった。 ○園で過ごすことにより、在園児の様子や保育者のかかわりなどを見て、保護者が就園へのイメージが湧き、安心して子育てができるように支援していった。	・利用者からの紹介や在園児きょうだいを中心に、少しずつ参加者が増えている。園に足を運ぶことで、その後本園に入園した時に、慣れるのが早いと感じる幼児もいた。 ・感染症の流行時期や天候によっては、少人数になってしまうこともあるので、来年度は、更に利用者を増やすために、発信に力を入れていき、これから妊娠出産を予定する家族への呼びかけにも取り組んでいきたい。

4. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な内容
幼児の意欲や探求心が発揮できる環境づくりについて研究し、教育保育の質の向上に努めていく	以上児、未満児に分けて研究テーマを設定。各クラスが園内での公開保育を行い、振り返りと研究から見えてくるものを実践していく。研修参加、他園への施設視察、公開保育及び園内研修を実施し、全業務の質の向上を図る。
情報発信について	園生活の様子を保護者や地域に発信していくことで、保護者の安心感と地域に開かれた園となるように努める。 ドキュメンテーションを使って、園生活様子を写真と共に配信していく。個人情報の保護に十分に気を付けながら園外への情報発信を行うことで、子育て、幼児教育保育の拠点として地域に根差していく。
安全対策について	ヒヤリハットから見えてくる危険箇所とケガにつながる状況を把握し、チェックリストなどで継続的に確認予防を行う。また、重大事故につながる事案に関しては、シミュレーション研修を実施して意識を高めていく。

5. 総評

以上児クラスを中心に、子どもが主体的に活動しながら豊かな体験を得られるように、環境づくりや準備を行っていった。年少児年中児の混合クラスでは、お互いが刺激を受けて経験を積んでいくことで、「やりたい」から「できること」が増えていき、自己肯定感の向上に繋がっている。今年度5月からは新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げられたが、インフルエンザや他の感染症も例年以上に流行する時期があり、感染防止対策や消毒などの衛生面は引き続き強化していく。安全面については後半にけがが増加しハード面ソフト面での対策を講じていくが、園児自身が危険を察知、回避できる力を高めることの必要性を実感する。体幹を鍛える遊びや活動内容の提供や安全について園児自身が考える機会を作り、大きなけがに繋がらないような力をつける保育教育内容を意識していきたいと思う。職員の働きやすい職場づくりに関しては、休憩時間や書類作成のノンコンタクトタイムの確保、年休取得率の向上が課題となっていく。来年度は、保護者が子どもの園での様子、成長につながる活動の一場面を行事や参観だけでなく、日々実感でき、子育ての大変さの中にも、たくさんの幸せや楽しさを感じられるような発信をしていきたい。

6. 園の運営について

子どもにとって大切なことは何であるのかを、職員が日々研鑽に励みながら教育・保育に向き合う姿が感じられる。園児の姿を見ている、いきいきとのびのびと活動し、また、安心して保育教諭に関わる様子から信頼関係が築かれていることが見て取れる。子育て世帯を取り巻く環境は急速に変化していると感じるので、保護者支援や地域との関係性にも力を入れていただきたい。そして、職員にとって働きやすい職場であるように、適正な労務管理を行ってほしい。

令和6年6月18日

社会福祉法人 芦刈福祉会

理事 南里 剛太

7. 財務状況

令和5年度、あしかりこども園の会計監査にあたり、収入支出に伴う関係書類及び関係帳簿等を慎重に審査した結果、いずれも正確であり園の運営、財政管理は適正に行われていると認められます。

令和6年6月1日

社会福祉法人 芦刈福祉会

監事 楠田 好樹